

ボランティアにおける多様性の結節点

——東京都西多摩地域の森林ボランティア活動における〈安全〉をめぐる——

筑波大学・日本学術振興会 富井久義

1 目的

本報告の目的は、2002年度から5年間にわたって東京都環境局が主催し、西多摩地域の諸森林ボランティア活動団体が運営を担った森林ボランティア体験講座「多摩の森・大自然塾」の展開において、〈安全〉がくり返し語られてきたことのもつ意味を明らかにすることである。

森林ボランティア活動にかんする既存研究の主たる課題のひとつは、森林の保全・管理を手がける市民の可能性をめぐる議論である。そこでは一方で、活動が「農山村と都市を結ぶ多面的な市民活動の母体」「市民参加に基づく新たな森林管理体制創出のための『ゆりかご』としての可能性を秘めている」（山本信次編 2003）と評価されている。他方で活動にはたらく環境統治性に注意を向ける議論も展開されており、そこでは市民自身が多様な活動へのかかわりかたを担保して自律的な活動を模索してゆくことが課題に据えられている（松村正治 2007）。

本報告はとくに後者の問題関心を踏まえ、森林ボランティア活動における多様性がどのようにして担保されているのかという観点から、活動の組織者や参加者の実践に定位しつつ、「多摩の森・大自然塾」で〈安全〉がくり返し語られたことのもつ意味を検討してゆく。

2 方法

本報告でもちいるデータは主として、①「多摩の森・大自然塾」事業の受託者であるNPO法人「森づくりフォーラム」が有する関連資料、②森づくりフォーラムの機関誌、③関連する諸参加者への聞き取りである。なお報告者は、2011年11月より「多摩の森・大自然塾 奥多摩・鳩ノ巣フィールド」で継続的に参与観察をおこなっている。

3 結果

分析の結果明らかになるのは、①くり返し語られる〈安全〉は、西多摩地域の森林ボランティア活動の展開のなかで、そのネットワークの結節点となりうるキーワードとして、「多摩の森・大自然塾」の展開にあたって選ばれたものであること、②「多摩の森・大自然塾」が実施された20以上のフィールドのうち、〈安全〉をキーワードとして活動を展開しつづけることが可能だったのは、本講座を契機にあらたに活動をはじめた「奥多摩・鳩ノ巣フィールド」にかぎられることである。

4 結論

「多摩の森・大自然塾」において〈安全〉をくり返し語ることは、活動の多様性をめぐる結節点としての機能を果たした。すなわち、①諸活動参加者の多様性の水準に着目すれば、それは諸参加者にとって共有可能な一致点であったのであり、多様な価値観にもとづく参加を可能にする基盤となった。他方で、②西多摩地域の諸団体の多様性の水準に着目すれば、それは諸団体がみずからの活動との差異化をはかるための参照点となったのであり、これによって結果として、〈安全〉をキーワードとする活動もまた、西多摩地域の多様な活動のうちのひとつとして位置づいてゆくこととなった。

文献

山本信次編、2003、『森林ボランティア論』日本林業調査会。

松村正治、2007、「里山ボランティアにかかわる生態学的ポリティクスへの抗い方」『環境社会学研究』13: 143-157。